

# 国語選抜試験

模範解答

■採点基準  
記述式問題では、同意表現は可。書きぬぎの場合のみ、正答例以外は不可。

新小五

一 次の——線の読みを書きなさい。

- (1) 葉のきき目が持統する。  
 (2) トラックが左折する。  
 (3) 昼飯をみんなで食べる。  
 (4) 会議の資料を借用する。  
 (5) 自分の念願がかなう。  
 (1) じぞく  
 (2) させつ  
 (3) ひるめし  
 (4) しゃくよう  
 (5) ねんがん

二 次の——線を漢字で書きなさい。

- (1) 五段へんそくの自転車。  
 (2) 道路のみぎがわを歩く。  
 (3) かさをさして歩く。  
 (4) かふんがひさんする。  
 (5) ちよきんばこを集める。  
 (1) 変速  
 (2) 右側  
 (3) 差(して)  
 (4) 飛散  
 (5) 貯金箱

三 次の各問いに答えなさい。

- 問一 次の各組に共通してつづけることのできる部首の名前を、ア～カからそれぞれ選びなさい。
- (1) 立・士・寸  
 (2) 土・兄・申  
 ア さんずい      イ にんべん      ウ ころもへん  
 エ しめすへん      オ いとへん      カ ぎょうにんべん
- ① (1)は「位・仕・付」、(2)は「社・祝・神」です。
- (1) イ  
 (2) エ

問二 次の各文の——線が直接かかっている部分を、ア～オからそれぞれ選びなさい。

- (1) きのう ア ぼくは イ 近くの ウ おじさんの エ 家へ オ 行った。  
 (2) わたしは 読書を 毎日 十分間 ウ することを エ 母と オ 約束した。
- ① 問題の部分とそれぞれの選択肢を直接つなげて読んで、日本語として結びつきが強いものを選びます。  
 (1)「きのう↓行った」、(2)「読書を↓することを」は結びつきが強いことがわかります。
- (1) オ  
 (2) ウ

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

そのとき、だれのすがたも見えないのに、十二ばんめの子どものつぎで、「じゅうさんっ。」  
と、いったものがありました。①玉をころがすような、よい声でした。  
その声を聞くと、子どもたちは、「それ、そこだっ。神さまをつかまえろっ。」  
と、いって、十二ばんめの子どものよこを、とりまきました。  
神さまは、めんくらいました。  
子どもたちのことだから、つかまったらどんなめにあうかもしれません。  
ひとりの、せいたかのつぼの子どもの、またの下をくぐって、神さまは、森へ、にげかえりました。けれど、②あまりあわてたので、くつをかたほう、おとししまいました。  
子どもたちは、雪の上から、まだあたたかい、小さな赤いくつをひろいました。  
「神さまは、こんな小さなくつを、はいてたんだね。」  
と、いって、みんなでわらいました。  
そのことがあってから、神さまは、もう、めったに森から出てこなくなりました。それでもやはり、、子どもたちが森へあそびにいくと、森のおくから、  
「おうい、おうい。」  
と、よびかけたりします。

(新美南吉「子どものすきな神さま」より)

問一 線①「玉をころがすような、よい声」とありますが、だれの声ですか。文中から書きぬきなさい。文中から書きぬきなさい。

神さま

問二 線②「あまりあわてた」とありますが、なぜあわてたのですか。その理由がわかる一文を文中からさがし、初めの八字を書きなさい。

子どもたちのこと

問三 文中のにあてはまる言葉として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

- ア 子どもがすきなものだから
- イ 子どもに遊んでもらいたいから
- ウ 子どもをこわがらせたいから
- エ 子どもを驚かせたものだから

ア

↓子どもたちのそばに行かなくても、声をかける神さまの様子から考えます。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

めずらしくいいお天気でした。一面に積もった雪がきらきらとかがやく村の道を、幸助は、独り言を言いながら、歩いていました。

「おかしいな。どうしたんだろう。いつもはおとなしく留守番する子が、今朝にかぎって、<sup>①</sup>行っちゃいけない、なんて、だだをこねたが……。まあいい、みやげでも買って、早く帰ってやることにしよう。」

そのころ、子どもは、心配そうに空を見上げていました。

昼過ぎになって、急に空がくもってきたかと思うと、北風がビュウツとふいて通りました。はだかの木の枝が、カラカラと鳴りました。夕方になるにつれて、風はいつそう強くなり、ゴウゴウとうなりながら、雪けむりを上げて暴れていきます。子どもは、居ても立ってもいられないように、表に出てみたり、家に入ったりしていました。しかし、いつまでたっても、幸助は帰ってきません。

日は、とつぷりとくれました。ふぶきは強くなるいっぽうです。じっとしていられなくなって、<sup>②</sup>子どもは、外にとび出しました。原っぱを駆けぬけて、町へ行く道をいっさんに走りました。二、三步先も見えないふぶきの中を歯をくいしばって走りました。子どもの後ろにつむじ風が起きて、<sup>③</sup>まるで雪がいつしよに走っているようでした。

村境のおじょう様のお堂の前に、幸助は、荷物をこしくくりつけたまま、気を失ってたおれていました。子どもは、雪に半分うずもれた幸助をようやくだき起こすと、せなかにしよいました。そして、足をふみしめながら歩きだしました。小屋にもどり着くと、幸助の体をいろりの横にねかせてふとんをかぶせました。

「おじちゃん、おじちゃん。目を覚ましておくれよ。おじちゃん。ね、おじちゃん。」

<sup>④</sup>しまいには、泣き声になって幸助をゆさぶりました。氷のように冷たくなった手足をさすってみました。それでも、幸助は、身動き一つしません。

子どもは、じっと考えていました。

「<sup>⑤</sup>そうだ、火をたこう。」

(注) いっさんに——夢中になってかけだすさま。 つむじ風——うずをまいて強くふく風。  
(成尾正治「ひよつとこ」より)

いろり——ゆかを四角に切つて火を使えるようにした所。

問一 ——線①「行っちゃいけない、なんて、だだをこねた」とありますが、その理由として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

- ア ふぶきになりそうだと思ったから。
- イ 一人で留守番をするのがさびしかったから。
- ウ 自分もいつしよに行きたかったから。
- エ 病気の幸助の身を心配したから。

問二 ——線②「子どもは、外にとび出しました」とありますが、子どもは何をするためにとび出したのですか。十字以内で書きなさい。

ア

やや難

問三 ——線③「まるで雪がいつしよに走っているようでした」とありますが、このように見えた理由を説明した次の文の□にあてはまる最もふさわしい言葉を、文中から四字で書きぬきなさい。

(例) 幸助をさがすため。

問四 ——線④「しまいには、泣き声になって」とありますが、子どもが泣き声になった理由を表した次の文の□にあてはまる最もふさわしい言葉を、文中から三字でそれぞれ書きぬきなさい。

つむじ風

問五 ——線⑤「そうだ、火をたこう」とありますが、火をたいてどのようにしようと思ったのですか。最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

A 冷たく

B 身動き

問六 ——線「そのころ」とは、どこを、だれが何をしていたところですか。文中の言葉を用いて、四十字以内で書きなさい。

イ

やや難

①最初から2行目までに、幸助の様子が表されていることに注目します。

独	雪
り	が
言	き
を	ら
言	き
い	ら
な	と
が	か
ら	が
、	や
歩	く
い	村
て	の
い	道
た	を
こ	、
ろ	幸
。	助
	が
	、

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「土が死んだ」ということで、重学にもすぐに①思いあたることがありました。それは昔は、土をほるとかんたんに、みみずをとることができたのです。落葉の下や、わらなどのつまれた土をほると、そこにみみずが、いっぱいいました。そのみみずをエサにして、川や池へ魚つりにいったのです。ところがいまは、どこをほりかえしても、みみずを見ることができません。植物の成長に必要な窒素、燐酸、カリを土にあたえるのが、化学肥料による農業です。重学も子どものころ、学校で肥料の三要素といって教わったのです。窒素、燐酸、カリなどは化学的につくれるもので無機質です。これらの無機質は、直接野菜や米や果物の栄養となります。それによって収穫をあげることができません。

化学肥料や農薬を使った農業は、農家の人たちの手間ははぶき、農産物の生産高をあげてきました。消費者に、安い値で豊富な農産物を供給してきたのです。ところが、これら化学肥料は、土の中に住んでいる細菌や、糸状菌(カビなど)、ダニ、みみず、昆虫、もぐらなど、小さな生きものたちのエサにはなりません。それで、これらの小さな生きものたちはへっていき、やがていなくなってしまうます。

土の中の小さな生きものたちは、土の中を動きまわり、糞などを出して、土をたがやしてくれるのです。また、これら小さな生きものたちの働きによって、土の粒がむすびつけられてかたまります。そしてかたまりとかたまりの間に適当なすきまがつくれます。そこに水がしみ、土のかわくのをふせぎ、水はけをよくし、また適当な湿度をたもちます。そして空気をすいこみ、太陽の光をたくわえて、地面に温かみをもたせ、冷害をふせぎ、なお干害をもふせぐ働きをします。このような、すばらしい働きをしてくれる土の中の小さな生きものたちが、化学肥料や、農薬によって、死んでしまうというのです。小さな生きものたちが死ぬことは、土の働きをおとろえさせることです。

こうして土は、力をなくしてしまうのです。そして化学肥料と農薬でつくられた、味も香りもすい、栄養もとばしい野菜や米や果物が、わたしたちの目の前に、ならべられることになるというわけです。重学は中学校のことを思いました。荒れる子どもたちは、いつもイライラし、すぐカツとします。おちつきがないのです。それでいてひ弱いのです。子どもたちの生命力がおとろえてしまっているのです。それは———食生活にも原因があったのかもしれない。土の自然が弱れば野菜や果物の生命力も弱ってくる。食べものの生命力が弱れば人間も弱ってくるのは……。

死んだ土を、よみがえらせる手だてのひとつが、酒井先生は熟成した堆肥を、土に入れてやることだということです。熟成した堆肥には、土の中の小さな生きものたちの栄養が、たくさん入っています。こうした熟した堆肥でもって土の自然をまもり、野菜や果物や米をつくる農業が有機農業で、日本の昔———太平洋戦争前までは、こうした有機農業が、日本の農業の営みだったのです。

その有機農業をすすめるためには、熟成した堆肥をつくらなければいけないのですが、堆肥をつくるには、もてあまされ、しかもあふれていて、どこの自治体(村や町や市など)も、その処理にこまっている生ごみを発酵させて、使うことができます。生ごみは、土をよみがえらせる、すばらしい資源なのです。ムダにすてはいけません。

(鈴木喜代春「生ごみは大地を生かす」より)

(注) 重学——人物の名前。元中学校の校長で、今は退職している。

冷害——気温が低いために農作物などが不作になること。干害——ひでりによる被害。

難

問一——線①「思いあたること」とありますが、どのようなことに思いあたるのですか。文中の言葉を用いて、三十五字以内で書きなさい。

直後の四つの文に注目し(例)

ま	昔
は	は
見	土
あ	の
た	中
ら	に
な	み
い	み
と	ず
い	が
う	い
こ	つ
と	ば
。	い
	い
	た
	の
	に
	、
	い

問二——線②「化学肥料」とありますが、その利点としてふさわしくないものを、ア～エから選びなさい。

- ア 農産物を育てるのに手間がかからないこと。
- イ 小さな生きものたちのエサになること。
- ウ 農産物をたくさん収穫できること。
- エ 農産物の値だんを安くできること。

問三——線③「すばらしい働き」とありますが、土の中の生きものたちのすばらしい働きとしてふさわしいものを、ア～オから二つ選びなさい。

- ア 土がたがやされる。
- イ 太陽の光があたりやすくなる。
- ウ 土をかきやすくなる。
- エ 水はけがよくなる。
- オ 空気がきれいになる。

ア [ ] エ [ ] (順不同)

やや難

問四——線④「それ」がさしている内容を、文中の言葉を用いて、二十字以内で書きなさい。

問五——線⑤「野菜や果物の生命力も弱ってくる」とありますが、生命力が弱るとどのような農作物になりますか。「く農作物。」につながるように、文中から十六字で書きぬきなさい。

(例)

子	ど	も	た	ち	の	生	命	力	が	お	と	ろ	え	て	い	る	こ	と	。
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問五——線⑤「野菜や果物の生命力も弱ってくる」とありますが、生命力が弱るとどのような農作物になりますか。「く農作物。」につながるように、文中から十六字で書きぬきなさい。

味も香りもすい、栄養もとばしい農作物。